



著者プロフィール

白石瀏路（しらいし・ふちじ）本名 雅子

昭和 45 年 5 月 東京都板橋区生まれ
 平成 11 年 1 月 三菱地所ホーム俳句同好会にて俳句を始める
 平成 12 年 10 月 三菱地所俳句部「菱の実会」入会
 深見けん二、本井英 各氏に師事
 平成 14 年 5 月 「花鳥来」入会（主宰深見けん二）
 俳人協会会員

〈句集『蝶の家』より転載〉〈2017 年 9 月 17 日時点〉

『蝶の家』（自選15句）

白石 瀏路

空を飛ぶ這ひ児人形つるし雛
 なにもかも花へと沈む吉野山
 一片の落花に時の流れ出し
 ス克蘭ブル交差点より薄暑来る
 勇み鶉や燃ゆる水面に放たるる
 一蝶を飲込み走り蓮の風
 朝市に届く野菜や夏燕
 水に置く流燈母を照らし出し
 目玉より動き出したる蜻蛉かな
 帰国せし夫にもくもく秋刀魚焼く
 身籠りし子は女の子小鳥来る
 バギーの児ばびぶべ喃語秋の雲
 蜂蜜の瓶に結晶冬に入る
 自づから輝くものに冬木の芽
 雑踏に富士をひろげし暦壳